

ファイルモア大統領の国書

〈解説文〉

亞美理駕大合衆国大統領役相勤候、姓ハ斐謨、名ハ美辣ト申者御通申候、

日本国 大君主殿下にハ平安^ニ被成御座、是ぞ至極尊むべき敬ふべき良友と可申者也、

今般別段本国の兵船大臣海軍撫将彼理なる者を差出、一組の兵船を引続^ヘ、国

書を携^ヘ、貴国の御境迄相越、改て 殿下の尊覧^ヘ相備^ヘ候、拵

右海軍總將^ヘ対面

にて申付候者、我等心中に、前々^ニ貴国与通好致度實情を、取次

申述候^ニ付、

殿下の疎略に不思召を願ふ、今度我両国にて、親友の懇交を取結

始め度に依り、且ハ通商

三ヶ條を相定め度存し、此度欽差役彼理^江申付 貴国^ヘ罷出、右二

ヶ條の儀取捌ん

ため、君主殿^江御通申候、尤吾合衆国規定の仕来りにハ諸役人異国^ニの政札^ニ差越

引統候義者、嚴敷禁制^ニ付、此度明白^ニ此欽差役の者^江申付、貴地

在留之節者、貴所

人民など労役・擾動致間敷との事也、扱當時合衆国の広大なる事ハ、其東西の辺

境ハ、皆海洋迄相達、其内西界ハ、日本国^ヘ相対し候、若し火輪船^ヘ打乗、加理科

爾^{（口偏）}啞省と申地方を離れ、又ハ呵哩罕郡と申地方よりして、大平海を馳せ越候^ヘハ、昼夜

十八日にして貴国の港口^ヘ到着致す也、合衆国の一省名を加理科爾^{（口偏）}啞と申ハ、大国

にて產物も多く、毎年黃金を出す事四千万両程の多さに白銀・水銀・宝玉等諸物も、

同様に多く出產す 日本にも亦同様に富み肥^ヘ、沢山に宝物を出産す、人物ハ

聰明・利発にて、芸能多く候也、此隣接の両地相互^ニ往来セハ、必らす共々大利益を

得ん事疑なし、我等固ク此訛^ニ付て交易を開かんと存するなり、爰に兼而相心得候者、

（以下略）

知らせ申、此国書ハ、是正真の品^ニて、本国の大玉璽と名前と花押を見給ひて、証拠と致されよ、

亞美理駕大合衆国^ニの都ハ、華盛頓と云ふ地に在り、西洋の紀年一

千八百五十二年十一月十三日にして、即ち壬子の年十月初六日(マメ)に封す

〈読み下し文〉

アメリカ大合衆国大統領役相勤め候、姓はフィルモア、名はミラードと申す者御通申し候、日本國大君主殿下には平安にござなされ、これぞ至極尊むべき敬うべき良友と申すべきものなり、今般別段本国の兵船大臣海軍總將とうじょうペリーなる者を差し出し、一組の兵船を引き統べ、国書を携え、貴國の御境まで相越し、改めて殿下の尊覽そんらんへ相備え候、さて右海軍總將へ対面にて申しつけ候は、我ら心中に、前々より貴國と通好いたしたき実情を、取りつぎ申し述べ候につき、殿下の疎略に思し召さざるを願う、このたび我が

東西の辺境は、みな海洋まで相達し、そのうち西界は、日本國へ相対し候、もし火輪船へ打ち乗り、カリフオルニア省と申す地方を離れ、またはオレゴンと申す地方よりして、大平海を馳せ越し候えば、昼夜十八日にして貴國の港口へ到着致す也、合衆国の一省名をカリフオルニアと申すは、大国にて產物も多く、毎年黄金を出すこと四千万兩程の多さに白銀・水銀・宝玉等諸物も、同様に多く出産す、日本にもまた同様に富み肥え、沢山に寶物を出産す、人物は聰明・利発にて、芸能多く候也、この隣接の両地相互に往来せば、必ずともどもに大利益を得んこと疑いなし、我ら固くこの訳について交易を開かんと存ずるなり、ここにかねて相心得候は、

（以下略）

知らせ申す、この国書は、これ正眞の品にて、本国の大玉璽じと名前かおと花押かおを見給たまいて、証拠と致されよ、

ケ条を相定めたく存じ、このたび欽差役きんしゃやくペリーへ申しつけ、貴國へ罷かり出で、右二ヶ条の儀取り捌さばかんため、君主殿え御通申し候、もつともわが合衆国規定の仕来りには諸役人異國の政礼など差し越し引き統べ候義は、厳しき禁制につき、このたび明白にこの欽差役の者へ申しつけ、貴地在留の節は、貴所人民など労役・擾動致すまじきとの事也、さて當時合衆国の広大なる事は、その

日に封す

アメリカ大合衆国の都は、ワシントンという地にあり、西洋の紀年一八五二年十一月十三日にして、すなわち壬子の年十月初六日に封す

〈用語の解説〉

- ・亞美理駕大合衆国大統領：アメリカ合衆国大統領。
- ・姓ハ斐謨、名ハ美辣：ミラード・フィルモア。
- ・日本國大君主殿下：12代將軍徳川家慶。
- ・海軍總將彼理：東インド艦隊司令長官ペリー。
- ・火輪船：外車式蒸氣船。
- ・華盛頓：ワシントン。

〈解説〉

嘉永6（1853）年、ペリー率いる東インド艦隊が浦賀沖に来航した。6月9日、久里浜（くりはま）に上陸した一行は、アメリカ大統領フィルモアの国書を浦賀奉行に手渡した。

史料は、1853年11月13日付のフィルモア大統領の国書である。カリフオルニアでの金鉱発見（1848年）にも触れている。太平洋を横断して18日間で到達できる距離にあること、両国の友好と通商関係の樹立を求めた部分である。

幕府は、朝鮮・琉球以外の国書を受領しない従来の方針をやぶつて国書を正式に受けとり、翌年に回答すると約束してとりあえず退去させた。国書には、およそ次のことが書かれている。

(1) 親友の懇交を結び、通商の条約を定める。

(2) アメリカは異国の政礼を犯すことはない。

(3) 火輪船により、アメリカから太平洋（太平洋）を18日で来日できる。

(4) カリフオルニアの黄金は価値が高く、日本も富・宝物が多く、人物は聰明利発で芸能多彩である。隣接の両国が往来すれば、必ず大利益を得る。

(5) 貿易を始めて利益がなければ中止は可能であり、時期は限定できる。

(6) 難破した船員の救助。

(7) 火輪船のための石炭の供給。

これに対して、幕府は決断を下すことができなかつた。幕府はペリー来日とアメリカ大統領国書を朝廷に報告するとともに、先例をやぶつて諸大名や幕臣に国書への回答について意見を提出させた。開国は拒絶するが、戦争も避けるべきとする意見が多数を占めた。

この措置は朝廷を政治の場に引きだしてその権威を高めると同時に、諸大名に幕政への発言の機会を与え、これまで幕府が独断で決定してきた政治運営を転換させる契機となつた。

史料の表紙には「亞美理駕願書漢文和解」^{わげ}とある。幕府が諸大名に回覧した大統領の国書とペリー書簡の和解（和訳）である。漢文が正本、それにオランダ語訳が添付され、和訳は正本の漢文からなされた。原文の英語から漢文へ訳され、それが日本語に訳された。諸大名に回覧した国書の写しとみられる。

【参考文献】

- ・加藤祐三『黒船異変』岩波新書
- ・井上勲編『開国と幕末の動乱』〈日本の時代史20〉吉川弘文館
- ・『大日本古文書』〈幕末外国関係文書之一〉東京帝国大学文科大学史料編纂掛